

**障害者ケアマネジメントがサービス利用者の生活の質の変化に及ぼす要因について**

○ 筑波大学 森地 徹 (5673)

小澤 温 (筑波大学・260)、奥那嶺 司 (神戸女学院大学・4971)、橋本 卓也 (大阪保健医療大学・5816)、

樽井 康彦 (龍谷大学・6155)、清水 由香 (大阪市立大学・3900)、白澤 政和 (桜美林大学・769)

キーワード：障害者ケアマネジメント、生活の質、効果評価

**1. 研究目的**

本研究の目的は、障害者の生活の質の向上に主眼を置いたケアマネジメント手法の開発及び障害者の生活の質の向上に資するケアマネジメント従事者の評価基準の明確化を図ることとした。

そしてそのために、障害者ケアマネジメントの担い手として期待される相談支援専門員の実践がサービス利用者の生活の質の変化に及ぼす影響の要因を検証するための面接調査を行い、ケアマネジメントの実践を通して生じたサービス利用者の生活の質を変化させる要因を検証し、そのことを通して障害者ケアマネジメントにおいて重要となる手法及び評価の視点を明らかにすることとした。

**2. 研究の視点および方法**

本研究では、事前に行った量的調査の結果を踏まえた上で、ケアマネジメント実践を通してサービス利用者の生活の質の変化について、その変化の要因を検証することとした。そのため、量的調査において協力を得た相談支援専門員6名、18ケースに関してインタビューガイドを用いた半構造化面接を実施した。

その際、インタビューガイドは量的調査の結果を踏まえて作成し、その項目を「相談支援による具体的変化」、「相談支援による変化の要因」、「意図的な変化を生み出す際の要素」、「相談支援以外による変化と要因」、「フォーマルサポートの活用による変化」、「インフォーマルサポートの活用による変化」の6項目とした。

調査はそれぞれ90分程度のインタビュー調査により実施し、内容をICレコーダーに記録したのち逐語録を作成した上で内容の分析を行った。

**3. 倫理的配慮**

調査は対象者に事前に内容を説明した上で、協力が得られる場合のみ実施した。その際、調査を拒否した場合に相手に何ら不都合が生じないことを説明した。

調査に際しては書面により同意書を交わしたうえで実施した。分析の際には個人や場所等が特定されることの無いよう特定の固有名詞は伏せることとした。

なお、本研究は筑波大学人間系倫理委員会の研究倫理審査を経た上で実施した。

#### 4. 研究結果

相談支援により生じる変化の要因として、利用者によるものと支援者によるものが指摘された。その中で支援者が意図的な変化を生み出す要因として、傾聴、エンパワメント、対話、環境調整、家族支援がそれぞれ指摘された。また、相談支援以外により生じる変化の要因としては、フォーマルサポートでは居宅介護、通所施設、医療が、インフォーマルサポートでは、仲間、家族、近隣住民がそれぞれ指摘された。

その中で、フォーマルサポートの活用の結果として、利用者については、役割の増加、自信の増加、安心感の保持、穏やかに過ごすことが、利用者以外については、家族の安定、がそれぞれ指摘された。また、インフォーマルサポートの活用の結果として、利用者の状態の安定、生活のメリハリ、生活の広がり、気持ちのはけ口、気分転換、生活の張り、がそれぞれ指摘された。

このように、相談支援事業における利用者の変化は、相談支援専門員と利用者以外にそれらを取り巻く環境が重要であることがわかった。そして、これらの3つの要素の相互作用により利用者の状態、気持ち、環境に変化が生じる様子がうかがわれた。

#### 5. 考察

利用者の生活の質に変化を及ぼす要因には、利用者によるものと支援者によるものが指摘されたが、それらのうち支援者によるものには直接的な支援と間接的な支援が影響していると考えられた。

そしてその中で、利用者が問題に直面した際に支援者がそのことをしっかりと受け止め、あわせて適切なサービスコーディネートを行うことが障害者ケアマネジメントにおいて重要になると考えられた。

またその際に、連携や調整の必要性が指摘されており、それらの点を踏まえたケアマネジメントの展開が不可欠になると考えられた。またその際には、各種連携、サービスコーディネート、家族との調整、健康への配慮、状況に応じた対応、の必要性が指摘され、実際にそれらの対応が行われていることから、これらの重要性が指摘できると考えられた。

そしてそのことにより、利用者の状態の安定、気持ちの変化、環境の変化が生じると考えられた。また関連して、相談支援専門員が傾聴、エンパワメント、対話、環境調整、家族支援といった部分が重要になると考えられた。

このように、障害者ケアマネジメントの展開において、利用者もしっかりと受け止め、適切なサービスコーディネートを行うことにより、利用者の生活の質に変化が及ぼされることが考えられた。